

12. 北アルプス縦走

1) 日程

1985年05月03日～05月05日(前夜発2泊3日)

2) コース

第1日 中房温泉―燕岳

第2日 燕岳―大天井岳―常念小屋

第3日 常念小屋―常念岳―蝶ヶ岳―上高地

3) 記録

05月03日 バスから中房温泉に降り立つと人の多さに驚いた。まるで観光地並だ。一息つく場所さえなく、とりあえず靴紐を結び直し、水だけ汲んで歩き出す。雪は無いが湿った落ち葉が最近まで雪のあったことを感じさせる。道は大きなジグザグを切りながら確実に高度を上げていく。人の列が途切れながらも続いているので焦らずに人の後についてゆっくり登る。ところどころに雪が現れ、泥道より雪道が多くなりだす頃水場に着く。朝食のパンを食べ、水を山の水に入れ替える。ここからは、完全な雪道となるが、相変わらず人の列に従って登る。樹林の道を辿るうちに、登山道の列もパーティーごとにはばらけてくる。それぞれ抜いたり抜かれたりしながら登り続け、第3ベンチで休んでいると、見覚えのある顔に出会う。3月に鷹ノ巣で会った彼だった。今回は二人連れで槍ヶ岳方面に行くとのこと、お互い気を付けてとあいさつを交わして別れる。

春の日差しは強く汗が流れ落ち、サングラスを外すと雪の反射が眩しい。木の間越しに稜線が見えるようになり、しばらくして合戦小屋に着く。そのまま登って稜線に出ると一気に展望が開ける。その景色を見ながらレストとする。

尾根伝いに燕山荘を目指して登る。天気は良く危険な個所もないのでのんびり景色を楽しみながら登る。小屋の裏に荷物を置いて、カメラだけ持って燕岳へ。山頂方面は雪もほとんど残っておらず散歩気分だった。まだ時間は十分あり、大天井岳方面に向かう人も結構いるので、自分も行こうかとも思ったが、今日はゆっくり休んで余裕をもって大天井岳に行こうと思い、予定通り燕山荘に泊まることにする。自炊者は、冬期小屋ということで狭いので、外のベンチでゆっくり夕食をとり、早めに寝ることにした。

05月04日 なるべく早く出ようと思い支度を急ぐ。今日も天気の手配はしなくて済みそうだ。ピッケルを片手になんとか緊張しながら出発。稜線はほとんど雪は残っていない。ただ日陰は凍っていて滑るので注意する。竹内門は冬道を通る。岩には氷がついていて滑り易い。ちょっと下って鞍部へ。登りに備えてここからはアイゼンをつ

ける。鎖場を越えて大天井の登りにかかる。斜面をトラバースするように大きなジグザグを切って登っていく。身の危険を感じるほどではないが、滑落したらただでは済みそうもないので緊張しながらも確実に登る。夏道とは違い、頂上に直接登ってゆく。それでもどちらかというと左に回り込んでいく感じた。稜線が見えそれを越えると頂上の一角で、直接滑落することもなくなりホッと一息つく。やっとのんびりする余裕が出て山頂で一休みする。これまで目に入らなかった周りの景色に突然気づき写真を撮りまくる。

ここからはアイゼンを外し、のんびりした気分でピッケルを片手にブラブラと歩き出す。横通岳付近は、ほとんど夏道に行く。暖かい日差し、冷たい風、残雪の山の陽気なほどの明るさ、これこそ春山だなどと、やたらと嬉しくなる。しかし雪が残っているところは、強い日差しでグズグズにくさっていて、一步ごとに膝ぐらいまで潜るので非常に歩きにくい。そしてびしょりと汗をかく。

常念小屋の屋根が見えてくると、灌木帯の中を下るようになり、まるで小屋の屋根に向かって下っていくようだ。小屋に着いたところで本日の行程は終了となるが、明日の行程の常念岳から蝶ヶ岳方面への下りの様子を見るために、一休みした後常念岳に登る。カメラだけ持って出発。ここも結構たくさんの人が登り下りしている。どうも燕岳と常念岳は、それぞれ単独で登る人たちが多く、縦走している人の数倍の人が登降しているようだ。雪はたいして付いておらず結構夏道が出ているのだが、その雪が解けてくさっているので下手に足を着くと雪ごと落ちそうで歩き難い。雪が多く残っているところを真直ぐ登る方が歩きやすいのだが、人も多いので夏道沿いに大きくジグザグを切って登ってゆく。登りついた稜線沿いに左に回り込み、最後の雪の斜面を登って山頂に着く。明日の下りは南斜面ということで鞍部まで完全に夏道が出ており一安心するが、何か拍子抜けしてしまった。周りの山々の写真を撮って下ることに。下りは身軽なこともあり、くさった雪に注意しながらも歩き易いところをドンドン下ってしまった。

今日は天気も良いので夕食は外で食べることにし、必要なものだけ持ち出して、座り易そうな石を見つけて店を広げる。春山の眩しいほどの明るさと清々しさの中、運動の後のビールは最高に美味かった。

05月05日 まだ暗いうちに歩き出す。斜面には点々とヘッドランプの明かりが動いている。雪が適当に締まって昨日と打って変わって歩き易い。東の空がだんだん明るくなってくるのだが、雲が出ていて日の出は見れない。風はさすがに冷たく、稜線に出たからは寒いくらいだ。山頂で風を避け、写真を撮ろうとしばらく待つみるが、雲が多く朝日は射してきそうもなく、汗が冷えて寒いので下ることにする。下りは夏道通り急な岩のゴツゴツした道を鞍部めがけて駆け下る。下りきったところで休もうかと思うが、風がまともに吹き抜けて寒いので先の林の中まで行く。林の中は雪がしっかり残

っていて登りの手前の木の陰で一休みしてチョコレートを一カケ。

呼吸を整えてゆっくり登り始める。雪のステップを一つ一つ辿りながら樹林の切れ目に沿って登って行く。単調な登りに時々振り返り高度を確かめて納得する。小さなピークを越えて下りになる。ちょっと走って勢いをつけ立ったまま滑って下る。これがなかなか面白く、調子に乗って転びそうになりながらもやめられない。下りついた小広い雪の原で一休み。夏には確か小さな池があったはずだ。

今度は樹林の中の登りだ。雪が中途半端に残っているので大きな段差などは思いのほか登り難い。樹林が切れて這松の中を白い道が続いているのが見える。少し右の方に回り込みながら登っていくと山頂が見えてくる。大きな岩を積んだような蝶槍の山頂で一休みする。ここから蝶ヶ岳までは、右に谷を隔てて槍から穂高への山並みが、何の遮るものもなく見渡せる。雪の消えた稜線を首からカメラをぶら下げて、思いつくままにシャッターを切りながらぶらぶらと歩いていく。だだっ広い蝶ヶ岳山頂の三角点付近にザックを置いて、広い山頂をうろつきまわって写真を撮りまくる。いい加減撮り飽きたところで一休みしてから出発。

のんびりと半分景色を眺めながら歩いていくと蝶ヶ岳の小屋に来た。今年のちょうどこのゴールデンウィークの頃上高地からここまで登ってきたものの、テントを張り終えた途端吹雪となり2日2晩テントの閉じ込められたことを思い出す。今になればそれも楽しい思い出だ。山では苦しかったことも辛かったことも恐ろしかったこともいつしか全てが楽しい思い出に変わってしまう。

長堀尾根に入り徳沢目指して下り始める。樹林帯に入ると再び雪の道となる。雪は結構残っているが踏み固められているので歩き易い。小さな上下を繰り返して長堀山へ。最後の眺望を楽しんで再び樹林の中の下りへ。半分遊びながら勢いをつけて滑り降りていく。急な所は踏まれていない雪の中を駆け下る。調子に乗りすぎると腰まで落ち込んで抜けるのに一苦労なので要注意だ。左に回り込んで斜面をジグザグに下るようになるが、これをなるべく左にたどって尾根筋に沿っていった方が雪もほとんどなく歩き易い。いつしか雪も消えて徳沢園に下り着く。

ここまで来るとさすがに人が多い。ロングスパッツを外し、靴の泥を落とし、顔を洗って上高地へ。いつもの賑やかな林道を歩きながら、去年のまだバスが入る前の静かな雪の中の上高地を思い出す。去年は雪が多く除雪が遅れて、沢渡から徒歩で釜トンネルを抜けて上高地に入ったのだ。一緒のバスで来て大正池で記念写真を撮っていたS社の山岳部の人たちは、自分が蝶ヶ岳で吹雪が恐ろしくてテントに閉じこもっている中、奥穂で遭難したと山から下りて知った。山は美しく厳しい。その中で人は美しく儂い。そんな感傷も上高地近くの雑踏で、ここも人さえいなければ最高に美しい場所なのだがいつもの被害妄想が出て、すでに山ではなく下界なんだと変な実感がわいた。

4)コースタイム

年月日	時間		場所	備考
1985.05.03	06:47	発	中房温泉	
	07:22	着	第1ベンチ	
	07:37	発		
	08:22	通過	第2ベンチ	
	09:03	着	富士見平	
	09:15	発		
	10:05	通過	合戦の頭	
	11:05	着	燕山荘	素泊り
	14:30		燕岳往復	
1985.05.04	04:25	起床		
	05:47	発		
	06:23	通過	竹内門	
	06:40	着	レスト	アイゼンをつける
	06:58	発		
	08:10	着	喜作レリーフ	
	08:20	発		
	09:05	着	大天井岳	
	09:40	発		
	10:28	通過	東大天井岳	
	10:43	着	レスト	鞍部
	11:05	発		
	12:03	着	常念小屋	
	12:25	発		常念岳往復
	13:28	着	常念岳	
	13:45	発		
	14:30	着	常念小屋	素泊り
1985.05.05	04:15	起床		
	05:25	発		
	06:40	着	常念岳	
	06:53	発		
	07:50	着	レスト	第2ピーク？手前鞍部
	08:05	発		
	08:40	着	レスト	鞍部

	08:55	発		
	09:30	着	蝶槍	
	09:50	発		
		通過	蝶ヶ岳	
	10:30	通過	蝶ヶ岳ヒュッテ	
	11:18	着	長へイ山	
	11:45	発		
	13:12	着	徳沢園	
	13:45	発		
	14:25	着	明神	
	14:30	発		
	15:10	着		